

(様式 1-2)

## I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

### まんのう町立仲南小学校

#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 15名	1学級 21名	1学級 19名	1学級 29名	1学級 27名	1学級 15名	2学級 7名	8学級 126名

○教員数15名

#### ◆学校の特徴

本校区は自然豊かな農山村地帯が大半を占め、兼業農家が多い。祖父母、曾祖父母との多世代家庭も多く、保護者をはじめ地域住民の学校教育への関心は高く、協力的な体制が整っている。

本校は校区の中央に位置し、児童の約7割が3方面（塩入・春日、山脇・新目、佐文・買田）からスクールバスにより通学している。

児童数は126名、8学級（通常学級6、特別支援学級2）である。30日以上欠席の児童は、令和7年度は4名（うち2名はまんのう町適応支援センター「いくむ」に登校）であった。

令和7年度の前期と後期に実施した児童アンケート結果は、以下のとおりである。

番号	質問内容	肯定的な回答（前期）	肯定的な回答（後期）	差（後期－前期）
1	学校が楽しい	76.4%	78.7%	+2.3%
2	友達や先生、地域の方にあいさつしている	91.3%	89.8%	-1.5%
3	自分も相手もうれしくなる言葉をつかっている	80.2%	83.2%	+3.0%
4	自分と違う考えでも、認めることができる	82.6%	85.4%	+2.8%
5	自分には、よいところがある	68.6%	69.6%	+1.0%

児童アンケートの結果から、学校生活に対する満足度や他者の考えを認める態度、自己肯定感は後期に向けて向上しており、安心して学べる環境づくりや教育活動の成果がうかがえる。一方で、あいさつなどの日常的な対人行動は低下しており、基本的な生活習慣や社会性の定着に課題が見られる。学校内での心理的安定は確保されているものの、行動面への継続的な働きかけが必要な状況である。

## II 研究主題等

研究主題

つなぐバトン、ひらく未来  
～児童・学校・地域でわくわくを創り出そう～

#### ◆研究主題設定の理由

児童の活躍の場を設定するにあたり、教師が児童の主体性を重視し、児童自ら活動を創り出す経験を通して自尊感情の向上を図る。また、地域と連携し、20周年記念行事を創出することで、学校を核として仲南地区全体の活性化を目指す。その実現に向け、本研究主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

### ①いじめ等のない安心して学べる学校づくり

#### ○色別活動の充実

全校生を縦割りで6グループに編成し、各委員会が企画した活動や遊びを実施する。異学年交流を通して協力し合う機会を増やし、思いやりの心の育成を図る。

#### ○ボランティア活動の推進

昨年度より実施している有志による「コスモスの育成」を継続して行う。種まきや水やり等の活動を主体的に行うことで、責任感や主体性の育成を図る。また、「コスモスロードでのあいさつ運動」を実施することで、あいさつができる児童を育てる。

#### ○SST（ソーシャルスキルトレーニング）

担任がSCの協力のもと、学級の実態に応じたSSTを実施し、対人関係を円滑に築くための具体的な方法や技能の習得を図る。

### ②心の小さなSOSの早期発見・早期対応

#### ○心の健康観察

児童は、日々の心の健康状態を、朝の時間にタブレットを活用し、4段階から選択して入力する。教師やSCは、気になる児童について授業中の様子や聞き取りを行い、SOSの早期発見に努める。

#### ○「先生聞いてねアンケート」の実施

学期に1回アンケートを実施し、担任が学級の全児童と面談を行うことで、SOSの早期発見に努める。また、保健室に「聞いてねBOX」を常備し、SCや養護教諭が面談を行う。さらに、SCが、全校生一人一人と面談を行う機会も設ける。

#### ○不登校対策委員会

管理職・養護教諭・担任・SSW・SC等で構成し、必要に応じてケース会議を実施する。保護者および児童に寄り添い、登校再開につなげられるよう、定期的に協議の機会を設ける。

### ③児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

#### ○20周年記念事業

仲南小学校に統合され20周年に当たることから、各種記念事業を実施し、学校および地域の活性化を図る。

- ・航空写真での撮影、20周年記念の下敷きや鉛筆の作成
- ・20周年記念かるたの作成
- ・公民館と連携した親子料理教室・かかし教室の開催
- ・まんのう町関係者の指導による「親子いきいき体操」の実施 等

#### ○「見てみて！じまんライブ」

全校生から希望者を募り、自分の特技を披露する機会を設ける。発表者は全校児童の前での発表を通して自己肯定感の向上を図り、参観者には、参加意欲の向上を促す。

## Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ・令和7年度の児童アンケートと同一項目による調査を実施し、経年比較を行う。
- ・保護者アンケートおよび教職員アンケートを実施し、結果を集計・分析する。
- ・保護者や地域住民からの意見・感想を収集する。

## Ⅳ 研究成果の普及方法

- ・香川の教育づくり発表会で、研究成果を報告し、他校への普及を図る。
- ・学校ホームページに掲載し、保護者および地域へ情報発信する。
- ・成果を冊子にまとめ、まんのう町教育委員会へ報告するとともに、校内で保存・活用する。